

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	2002年9月25日(当初設定日)から2022年1月14日までです。	
運用方針	質の高いユーロ通貨採用国の国債に投資し、安定的かつより優れた毎月の分配金原資の獲得を目的として運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	ピクテ・ユーロ最高格付国債ファンド・マザーファンド受益証券
	マザーファンド	質の高いユーロ通貨採用国の国債
運用方法	<p>①マザーファンド受益証券への投資を通じて、原則として最高格付*のユーロ通貨採用国の国債に投資し、利金等収益の確保と売買益の獲得を目指します。 ※最高格付とは、ユーロ通貨採用国内での最高格付を意味します。各国の格付は信用格付業者等が付与した中での最良の格付を参考とします。</p> <p>②実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。</p>	
主な投資制限	当ファンド	<p>①株式への投資は、転換社債を転換ならびに新株予約権を行使したものに限り、株式への実質投資割合は信託財産の純資産総額の30%以内とします。</p> <p>②外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。</p>
	マザーファンド	<p>①株式への投資は、転換社債を転換ならびに新株予約権を行使したものに限り、株式への投資割合は信託財産の純資産総額の30%以内とします。</p> <p>②外貨建資産への投資割合には制限を設けません。</p>
分配方針	<p>毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。</p> <p>①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。</p> <p>②収益分配金額は、基準価額の水準および市況動向等を勘案して委託者が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。</p> <p>③留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。</p>	



PICTET

ピクテ・ユーロ最高格付国債ファンド
(毎月決算型)
愛称：ユーロ・セレクト

運用報告書(全体版)

第205期(決算日2019年10月15日) 第208期(決算日2020年1月15日)
第206期(決算日2019年11月15日) 第209期(決算日2020年2月17日)
第207期(決算日2019年12月16日) 第210期(決算日2020年3月16日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、「ピクテ・ユーロ最高格付国債ファンド(毎月決算型)」は、2020年3月16日に第210期の決算を行いましたので、第205期から第210期までの運用状況をご報告申し上げます。
今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

ピクテ投信投資顧問株式会社

東京都千代田区丸の内2-2-1

お問い合わせ窓口

投資信託営業部

電話番号 03-3212-1805

受付時間：委託者の営業日の午前9時から午後5時まで

ホームページ：www.pictet.co.jp

■最近5作成期の運用実績

決算期		基準価額			参考指数		債券 組入比率	債券 先物比率	純資産 総額
		(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落率	期中 騰落率	期中 騰落率			
		円	円	%		%	%	%	百万円
第31 作成期	181期(2017年10月16日)	7,610	10	0.8	20,229	0.9	96.9	△ 0.5	245
	182期(2017年11月15日)	7,670	10	0.9	20,446	1.1	95.9	1.0	238
	183期(2017年12月15日)	7,619	10	△ 0.5	20,369	△ 0.4	96.4	0.1	236
	184期(2018年1月15日)	7,638	10	0.4	20,474	0.5	96.5	△ 0.5	236
	185期(2018年2月15日)	7,429	10	△ 2.6	19,975	△ 2.4	96.8	△ 0.0	228
	186期(2018年3月15日)	7,391	10	△ 0.4	19,913	△ 0.3	97.1	△ 0.0	225
第32 作成期	187期(2018年4月16日)	7,499	10	1.6	20,229	1.6	96.1	0.4	228
	188期(2018年5月15日)	7,346	10	△ 1.9	19,857	△ 1.8	96.4	△ 0.3	222
	189期(2018年6月15日)	7,236	10	△ 1.4	19,612	△ 1.2	95.9	△ 1.8	216
	190期(2018年7月17日)	7,502	10	3.8	20,359	3.8	96.7	△ 2.2	214
	191期(2018年8月15日)	7,204	10	△ 3.8	19,590	△ 3.8	97.5	△ 1.4	206
	192期(2018年9月18日)	7,353	10	2.2	20,057	2.4	97.1	△ 1.2	208
第33 作成期	193期(2018年10月15日)	7,251	10	△ 1.3	19,830	△ 1.1	96.8	△ 1.2	206
	194期(2018年11月15日)	7,240	10	△ 0.0	19,832	0.0	96.4	△ 1.3	203
	195期(2018年12月17日)	7,278	10	0.7	19,977	0.7	96.5	△ 1.3	205
	196期(2019年1月15日)	7,078	10	△ 2.6	19,469	△ 2.5	96.0	△ 1.1	199
	197期(2019年2月15日)	7,125	10	0.8	19,652	0.9	96.7	△ 1.2	201
	198期(2019年3月15日)	7,207	10	1.3	19,919	1.4	97.1	△ 1.2	201
第34 作成期	199期(2019年4月15日)	7,215	10	0.2	19,987	0.3	96.8	△ 0.8	201
	200期(2019年5月15日)	7,049	10	△ 2.2	19,579	△ 2.0	96.5	△ 0.8	192
	201期(2019年6月17日)	7,083	10	0.6	19,726	0.8	96.3	△ 0.9	190
	202期(2019年7月16日)	7,059	10	△ 0.2	19,705	△ 0.1	97.9	△ 2.3	189
	203期(2019年8月15日)	7,078	10	0.4	19,801	0.5	97.8	△ 1.3	188
	204期(2019年9月17日)	6,992	10	△ 1.1	19,637	△ 0.8	97.5	△ 1.3	186
第35 作成期	205期(2019年10月15日)	6,996	10	0.2	19,665	0.1	97.0	△ 1.3	186
	206期(2019年11月15日)	6,928	10	△ 0.8	19,520	△ 0.7	96.8	△ 0.9	182
	207期(2019年12月16日)	6,986	10	1.0	19,757	1.2	96.4	△ 0.9	183
	208期(2020年1月15日)	6,951	10	△ 0.4	19,708	△ 0.2	96.3	△ 0.9	172
	209期(2020年2月17日)	6,858	10	△ 1.2	19,468	△ 1.2	97.3	△ 0.9	168
	210期(2020年3月16日)	6,988	10	2.0	19,840	1.9	97.3	△ 1.0	171

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注2) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、「債券組入比率」および「債券先物比率」は、実質比率を記載しています。

(注3) 債券先物比率は買建比率－売建比率です。

(注4) 参考指数は、FTSE EMU国債指数AAAを委託者が円換算し、設定日(2002年9月25日)を10,000として指数化したものです。

■当作成期中の基準価額と市況等の推移

決算期	年 月 日	基 準 価 額		参 考 指 数		債 券 組入比率	債 券 先物比率
			騰落率		騰落率		
第205期	(期 首)2019年9月17日	円 6,992	% -		% -	% 97.5	% △ 1.3
	9月末	6,998	0.1	19,626	△ 0.1	97.3	△ 1.3
	(期 末)2019年10月15日	7,006	0.2	19,665	0.1	97.0	△ 1.3
第206期	(期 首)2019年10月15日	6,996	-	19,665	-	97.0	△ 1.3
	10月末	7,045	0.7	19,812	0.7	97.0	△ 1.4
	(期 末)2019年11月15日	6,938	△ 0.8	19,520	△ 0.7	96.8	△ 0.9
第207期	(期 首)2019年11月15日	6,928	-	19,520	-	96.8	△ 0.9
	11月末	6,985	0.8	19,680	0.8	96.7	△ 0.9
	(期 末)2019年12月16日	6,996	1.0	19,757	1.2	96.4	△ 0.9
第208期	(期 首)2019年12月16日	6,986	-	19,757	-	96.4	△ 0.9
	12月末	7,011	0.4	19,814	0.3	96.1	△ 0.9
	(期 末)2020年1月15日	6,961	△ 0.4	19,708	△ 0.2	96.3	△ 0.9
第209期	(期 首)2020年1月15日	6,951	-	19,708	-	96.3	△ 0.9
	1月末	6,952	0.0	19,709	0.0	96.9	△ 0.9
	(期 末)2020年2月17日	6,868	△ 1.2	19,468	△ 1.2	97.3	△ 0.9
第210期	(期 首)2020年2月17日	6,858	-	19,468	-	97.3	△ 0.9
	2月末	7,014	2.3	19,903	2.2	97.4	△ 1.0
	(期 末)2020年3月16日	6,998	2.0	19,840	1.9	97.3	△ 1.0

(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は各期首比です。

(注2) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、「債券組入比率」および「債券先物比率」は、実質比率を記載しています。

(注3) 債券先物比率は買建比率-売建比率です。

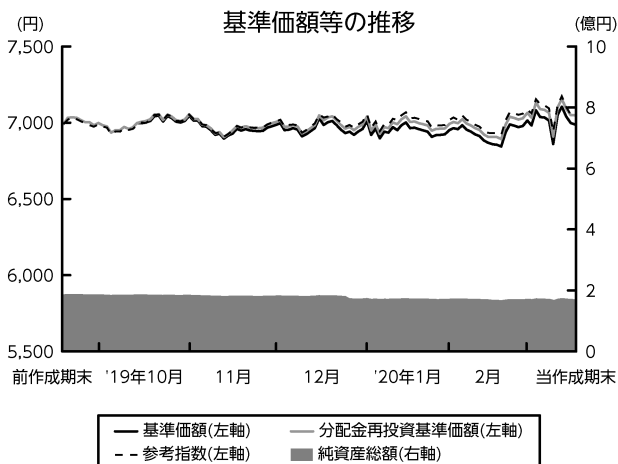
(注4) 参考指数は、FTSE EMU国債指数AAAを委託者が円換算し、設定日(2002年9月25日)を10,000として指数化したものです。

■当作成期中の運用状況と今後の運用方針（2019年9月18日から2020年3月16日まで）

1. 基準価額等の推移

当作成期の分配金再投資基準価額※は、0.8%の上昇となりました。

※「分配金再投資基準価額」は、購入時手数料等を考慮せず、税引前分配金を再投資した場合の評価額を表します。以下同じ。



○基準価額の高値・安値

決算期	期首	期中高値	期中安値	期末
第205期	19/9/17	19/9/19	19/10/3	19/10/15
	6,992円	7,035円	6,935円	7,006円
第206期	19/10/15	19/10/21	19/11/13	19/11/15
	6,996円	7,045円	6,896円	6,938円
第207期	19/11/15	19/12/13	19/12/9	19/12/16
	6,928円	7,029円	6,910円	6,996円
第208期	19/12/16	19/12/18	20/1/8	20/1/15
	6,986円	7,012円	6,898円	6,961円
第209期	20/1/15	20/1/17	20/2/14	20/2/17
	6,951円	7,002円	6,868円	6,868円
第210期	20/2/17	20/3/11	20/2/19	20/3/16
	6,858円	7,105円	6,844円	6,998円

(注) 各期末の基準価額は分配金込みです。

※参考指数は前作成期末の基準価額に合わせて指数化しています。

◇主な変動要因

- 上昇↑ ・実質組入国債からの利金収益
- 下落↓ ・実質組入国債の価格が下落したこと
- 下落↓ ・円に対してユーロが下落したこと

2. 投資環境

- ・ユーロ圏高格付国債市場は、前作成期末から2019年12月は、米連邦準備制度理事会（FRB）が追加金融緩和に対する慎重な姿勢を示したことや、米中貿易交渉の進展期待が高まり投資家のリスク回避姿勢が後退したことなどを背景に、下落（利回りは上昇）しました。また2020年1月半ばにかけて、米国と中国が貿易協定を巡る第1段階の合意文書に署名し、米国の対中追加関税引き上げが延期されたことなどを背景に下落（利回りは上昇）しました。その後3月上旬にかけて、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に対する懸念が広がり、各国の中央銀行による金融緩和策への期待が高まったことなどから上昇（利回りは低下）しました。3月中旬以降は、欧州中央銀行（ECB）の政策対応への失望から下落（利回りは低下）しました。作成期を通じてみれば、ユーロ圏高格付国債市場は下落（利回りは上昇）しました。
- ・為替市場では、前作成期末から2020年1月中旬にかけて、米中の閣僚級貿易交渉再開の決定や、米中貿易交渉が部分的に合意に至ったことなどを背景に投資家のリスク回避姿勢が後退し、円安・ユーロ高が進行しました。その後作成期末にかけては、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に対する懸念が広がったことなどを背景に投資家心理が冷え込み、急激に円高・ユーロ安が進行しました。期を通じてみれば、円高・ユーロ安となりました。

3. 組入状況

当ファンドが主要投資対象とするピクテ・ユーロ最高格付国債ファンド・マザーファンド受益証券への投資比率を高位に維持してまいりました。

実質組入外貨建資産については、為替ヘッジは行いませんでした。

<マザーファンドの組入状況>

主に最高格付のユーロ通貨採用国の国債に投資を行ってまいりました。

◇国別組入比率

【前作成期末】

国名	組入比率
ドイツ	65.4%
オランダ	32.6%



【当作成期末】

国名	組入比率
ドイツ	69.7%
オランダ	28.1%

(注) 組入比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

組入銘柄は、すべてAAA格相当の格付が付されています。

◇デュレーション

デュレーションの推移



先物取引を利用してデュレーション[※]の調整を行い、当作成期中は8.1～8.6年程度としました。

※投資元本の平均回収期間で金利の動きに対する感応度を示します。一般的に数値が大きいほど金利の動きに対して債券価格の変動が大きくなり、逆に数値が小さいほど債券価格の変動は小さくなります。

4. 収益分配金

当作成期中の収益分配は、基準価額の水準および市況動向等を勘案して決定しました。各決算期の分配金の計算過程につきましては、12ページをご覧ください。

なお、収益分配にあてなかった留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

◇分配金および分配原資の内訳

(単位：円・%、1万口当たり、税引前)

項目	第205期	第206期	第207期	第208期	第209期	第210期
	自 2019年9月18日 至 2019年10月15日	自 2019年10月16日 至 2019年11月15日	自 2019年11月16日 至 2019年12月16日	自 2019年12月17日 至 2020年1月15日	自 2020年1月16日 至 2020年2月17日	自 2020年2月18日 至 2020年3月16日
当期分配金 (対基準価額比率)	10 0.143	10 0.144	10 0.143	10 0.144	10 0.146	10 0.143
当期の収益	10	10	10	10	10	10
当期の収益以外	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	4,193	4,199	4,210	4,216	4,223	4,233

(注1) 対基準価額比率は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、当ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は小数点以下切捨てて表示しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

5. 今後の運用方針

(1) 投資環境

欧州では、圏内で相対的に経済規模が大きいイタリアを筆頭に新型コロナウイルスの感染が拡大しており、今後の状況に注意が必要です。2020年3月に、ECBは量的緩和政策を年末まで拡大すると決定し、新型コロナウイルスの感染拡大による経済への悪影響に対応することとしました。また、ECBが要請したことから、ユーロ圏各国が協調的な財政政策をとることが見込まれます。このような中、独10年国債利回りは新型コロナウイルスの動向に大きく左右される展開を想定しています。

(2) 投資方針

ピクテ・ユーロ最高格付国債ファンド・マザーファンド受益証券への投資を通じて質の高いユーロ通貨採用国の国債に投資してまいります。

実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行わない方針です。

<マザーファンド>

ユーロ圏の経済動向を注視しながら、ユーロ通貨採用国の最高格付国債に厳選投資を継続し、安定的なインカムゲインの確保と信託財産の成長を目指してまいります。また、金利動向見通しにより、機動的なデュレーション調整を行っていく考えです。

外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行わない方針です。

■ 1万口（元本10,000円）当たりの費用明細

項 目	第205期～第210期 (2019年9月18日～2020年3月16日)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
平均基準価額	7,000円	—	作成期中の平均基準価額（月末値の平均値）です。
(a) 信託報酬 （投信会社）	44円 (19)	0.626% (0.272)	(a) 信託報酬＝作成期中の平均基準価額×信託報酬率 ・ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、各種情報提供等、基準価額の算出等の対価 ・購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続等の対価 ・ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価
（販売会社）	(23)	(0.326)	
（受託会社）	(2)	(0.027)	
(b) 売買委託手数料 （先物・オプション）	0 (0)	0.000 (0.000)	(b) 売買委託手数料＝作成期中の売買委託手数料÷作成期中の平均受益権口数 ・売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) その他費用 （保管費用）	3 (1)	0.036 (0.008)	(c) その他費用＝作成期中のその他費用÷作成期中の平均受益権口数 ・保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 ・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・その他は、先物取引の委託証拠金に係る支払利息その他信託事務の処理等に要する諸費用
（監査費用）	(2)	(0.027)	
（その他）	(0)	(0.001)	
合 計	47	0.662	

(注1) 上記の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、設定・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額の円未満は四捨五入しています。

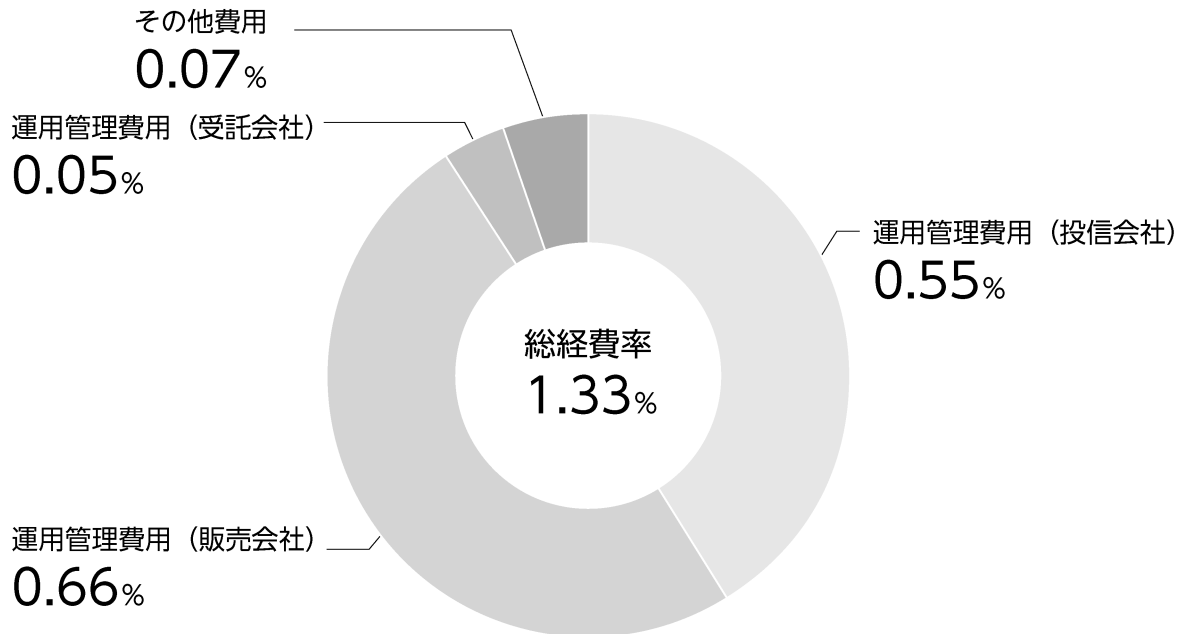
(注3) 売買委託手数料およびその他費用は、当ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注4) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目毎に小数第3位未満は四捨五入しています。

(参考情報)

■総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期中の平均受益権口数に作成期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）**は1.33%です。



(注1) 上記の費用は、「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

■親投資信託受益証券の設定、解約状況 (2019年9月18日から2020年3月16日まで)

決 算 期	第205期～第210期			
	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
ピクテ・ユーロ最高格付国債ファンド・マザーファンド	千口 424	千円 850	千口 9,484	千円 18,930

(注) 単位未満は切り捨てています。

■親投資信託における主要な売買銘柄 (2019年9月18日から2020年3月16日まで)

公社債

第205期～第210期				
買 付		売 付		
銘 柄	金 額	銘 柄	金 額	
—	千円 —	7.5% NETHERLANDS GOVT 23/1/15(ユーロ・オランダ)	千円 560,935	

(注1) 金額は受渡代金です。(経過利子分は含まれていません。)

(注2) 国内の現先取引によるものは含まれていません。

(注3) 単位未満は切り捨てています。

■利害関係人との取引状況等 (2019年9月18日から2020年3月16日まで)

該当事項はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人をいいます。

■自社設定投資信託受益証券等の状況等 (2019年9月18日から2020年3月16日まで)

該当事項はありません。

■特定資産の価格等の調査 (2019年9月18日から2020年3月16日まで)

該当事項はありません。

■組入資産の明細 (2020年3月16日現在)

親投資信託残高

種 類	第34作成期末(第204期末)		第35作成期末(第210期末)	
	□ 数	評 価 額	□ 数	評 価 額
ピクテ・ユーロ最高格付国債ファンド・マザーファンド	千口 93,133	千円 170,265	千口 84,073	千円 170,265

(注) 単位未満は切り捨てています。

<参考情報>

下記は、当ファンドが組入れているピクテ・ユーロ最高格付国債ファンド・マザーファンド全体(5,123,636千円)の内容です。

外国(外貨建)公社債

(A) 種類別開示

区 分		第35作成期末(第210期末)							
		額面金額	評 価 額		組入比率	うちBB格 以下組入比率	残存期間別組入比率		
			外貨建金額	邦貨換算金額			5年以上	2年以上	2年未満
ユ ー ロ	ド イ ツ	千ユーロ 34,000	千ユーロ 60,774	千円 7,229,150	% 69.7	% -	% 69.7	% -	% -
	オ ラ ン ダ	19,800	24,496	2,913,865	28.1	-	-	28.1	-
合 計		53,800	85,271	10,143,016	97.8	-	69.7	28.1	-

(注1) 邦貨換算金額は、当作成期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) 組入比率は、当ファンドが組入れているマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

(注3) 額面・評価額の単位未満は切り捨てています。

(注4) -印は組入れがありません。

(注5) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(B) 個別銘柄開示

銘 柄 名		第35作成期末(第210期末)						
		種 類	利 率	償還年月日	額面金額	評 価 額		
						外貨建金額	邦貨換算金額	
<ユーロ建>			%		千ユーロ	千ユーロ	千円	
(ドイツ)4.75% DEUTSCHLAND		国債証券	4.75	2040/7/4	15,000	31,480	3,744,605	
6.5% DEUTSCHLAND			6.5	2027/7/4	19,000	29,294	3,484,545	
(オランダ)7.5% NETHERLANDS GOVT			7.5	2023/1/15	19,800	24,496	2,913,865	
合 計		-	-	-	-	-	10,143,016	

(注1) 邦貨換算金額は、当作成期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) 額面・評価額の単位未満は切り捨てています。

先物取引の銘柄別期末残高

銘 柄 別		第35作成期末(第210期末)	
		買 建 額	売 建 額
外 国	EURO-BOBL	百万円 -	百万円 48
	EURO BUXL 30	-	52

(注1) 単位未満は切り捨てています。

(注2) 邦貨換算金額は、当作成期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注3) -印は組入れがありません。

■投資信託財産の構成

(2020年3月16日現在)

項 目	第35作成期末(第210期末)	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ピクテ・ユーロ最高格付国債ファンド・マザーファンド	170,265	99.0
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	1,654	1.0
投 資 信 託 財 産 総 額	171,919	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切り捨てています。

(注2) ピクテ・ユーロ最高格付国債ファンド・マザーファンドにおいて、当作成期末における外貨建純資産(10,370,666千円)の投資信託財産総額(10,383,354千円)に対する比率は99.9%です。

(注3) ピクテ・ユーロ最高格付国債ファンド・マザーファンドにおける外貨建資産は、当作成期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、当作成期末における邦貨換算レートは、1ユーロ=118.95円です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2019年10月15日)、(2019年11月15日)、(2019年12月16日)、(2020年1月15日)、(2020年2月17日)、(2020年3月16日) 現在

項 目	第205期末	第206期末	第207期末	第208期末	第209期末	第210期末
(A) 資 産	187,173,385円	182,792,601円	183,650,576円	173,323,696円	170,676,449円	171,919,444円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	1,364,096	1,367,172	1,348,359	1,266,027	1,298,901	1,263,985
ピクテ・ユーロ最高格付国債ファンド・マザーファンド(評価額)	185,809,289	181,425,429	182,302,217	172,057,669	167,837,548	170,265,459
未 収 入 金	-	-	-	-	1,540,000	390,000
(B) 負 債	453,806	469,754	466,281	439,131	1,983,391	811,868
未 払 収 益 分 配 金	266,881	263,177	262,198	248,735	245,985	244,874
未 払 解 約 金	-	-	-	-	1,532,195	393,871
未 払 信 託 報 酬	179,139	197,973	195,587	182,467	196,670	165,914
未 払 利 息	3	3	3	3	3	3
そ の 他 未 払 費 用	7,783	8,601	8,493	7,926	8,538	7,206
(C) 純資産総額(A-B)	186,719,579	182,322,847	183,184,295	172,884,565	168,693,058	171,107,576
元 本	266,881,033	263,177,660	262,198,323	248,735,405	245,985,250	244,874,796
次 期 繰 越 損 益 金	△80,161,454	△80,854,813	△79,014,028	△75,850,840	△77,292,192	△73,767,220
(D) 受 益 権 総 口 数	266,881,033口	263,177,660口	262,198,323口	248,735,405口	245,985,250口	244,874,796口
1万円当たり基準価額(C/D)	6,996円	6,928円	6,986円	6,951円	6,858円	6,988円

<注記事項(当運用報告書作成時点では、監査未了です。)>

(貸借対照表関係)

(注1) 当ファンドの第205期首元本額は267,134,352円、第205～210期中追加設定元本額は2,337,389円、第205～210期中一部解約元本額は24,596,945円です。

(注2) 1口当たり純資産額は、第205期0.6996円、第206期0.6928円、第207期0.6986円、第208期0.6951円、第209期0.6858円、第210期0.6988円です。

(注3) 元本の欠損

当作成期末において貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は73,767,220円です。

■損益の状況

第205期 (自2019年9月18日 至2019年10月15日)、第208期 (自2019年12月17日 至2020年1月15日)
 第206期 (自2019年10月16日 至2019年11月15日)、第209期 (自2020年1月16日 至2020年2月17日)
 第207期 (自2019年11月16日 至2019年12月16日)、第210期 (自2020年2月18日 至2020年3月16日)

項目	第205期	第206期	第207期	第208期	第209期	第210期
(A) 配当等収益	△ 61円	△ 66円	△ 70円	△ 66円	△ 66円	△ 61円
支払利息	△ 61	△ 66	△ 70	△ 66	△ 66	△ 61
(B) 有価証券売買損益	573,878	1,334,245	2,005,494	454,537	1,827,134	3,590,075
売 買 益	575,716	6,433	2,006,758	70,159	20,919	3,598,166
売 買 損	△ 1,838	△ 1,340,678	△ 1,264	△ 524,696	△ 1,848,053	△ 8,091
(C) 信託報酬等	△ 186,922	△ 206,574	△ 204,080	△ 190,393	△ 205,208	△ 173,120
(D) 当期損益金(A+B+C)	386,895	1,540,885	1,801,344	644,996	2,032,408	3,416,894
(E) 前期繰越損益金	△ 40,812,490	△ 40,054,650	△ 41,628,925	△ 38,012,433	△ 38,380,125	△ 40,411,260
(F) 追加信託差損益金	△ 39,468,978	△ 38,996,101	△ 38,924,249	△ 36,944,676	△ 36,633,674	△ 36,527,980
(配当等相当額)	(98,169,178)	(96,831,945)	(96,496,171)	(91,548,315)	(90,569,059)	(90,181,804)
(売買損益相当額)	(△ 137,638,156)	(△ 135,828,046)	(△ 135,420,420)	(△ 128,492,991)	(△ 127,202,733)	(△ 126,709,784)
(G) 計 (D + E + F)	△ 79,894,573	△ 80,591,636	△ 78,751,830	△ 75,602,105	△ 77,046,207	△ 73,522,346
(H) 次期繰越損益金	△ 266,881	△ 263,177	△ 262,198	△ 248,735	△ 245,985	△ 244,874
追加繰越損益金(G+H)	△ 80,161,454	△ 80,854,813	△ 79,014,028	△ 75,850,840	△ 77,292,192	△ 73,767,220
追加信託差損益金	△ 39,468,978	△ 38,996,101	△ 38,924,249	△ 36,944,676	△ 36,633,674	△ 36,527,980
(配当等相当額)	(98,169,409)	(96,832,303)	(96,496,435)	(91,548,441)	(90,569,795)	(90,182,109)
(売買損益相当額)	(△ 137,638,387)	(△ 135,828,404)	(△ 135,420,684)	(△ 128,493,117)	(△ 127,203,469)	(△ 126,710,089)
分配準備積立金	13,749,469	13,694,600	13,913,319	13,325,544	13,310,660	13,475,112
繰越損益金	△ 54,441,945	△ 55,553,312	△ 54,003,098	△ 52,231,708	△ 53,969,178	△ 50,714,352

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は各期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 第205期計算期間末における費用控除後の配当等収益 (382,273円)、費用控除後の有価証券等損益額 (0円)、信託約款に規定する収益調整金 (98,169,409円) および分配準備積立金 (13,634,077円) より分配対象収益は112,185,759円 (10,000口当たり4,203円) であり、うち266,881円 (10,000口当たり10円) を分配金額としております。

(注5) 第206期計算期間末における費用控除後の配当等収益 (423,823円)、費用控除後の有価証券等損益額 (0円)、信託約款に規定する収益調整金 (96,832,303円) および分配準備積立金 (13,533,954円) より分配対象収益は110,790,080円 (10,000口当たり4,209円) であり、うち263,177円 (10,000口当たり10円) を分配金額としております。

(注6) 第207期計算期間末における費用控除後の配当等収益 (556,095円)、費用控除後の有価証券等損益額 (0円)、信託約款に規定する収益調整金 (96,496,435円) および分配準備積立金 (13,619,422円) より分配対象収益は110,671,952円 (10,000口当たり4,220円) であり、うち262,198円 (10,000口当たり10円) を分配金額としております。

(注7) 第208期計算期間末における費用控除後の配当等収益 (381,912円)、費用控除後の有価証券等損益額 (0円)、信託約款に規定する収益調整金 (91,548,441円) および分配準備積立金 (13,192,367円) より分配対象収益は105,122,720円 (10,000口当たり4,226円) であり、うち248,735円 (10,000口当たり10円) を分配金額としております。

(注8) 第209期計算期間末における費用控除後の配当等収益 (411,274円)、費用控除後の有価証券等損益額 (0円)、信託約款に規定する収益調整金 (90,569,795円) および分配準備積立金 (13,145,371円) より分配対象収益は104,126,440円 (10,000口当たり4,233円) であり、うち245,985円 (10,000口当たり10円) を分配金額としております。

(注9) 第210期計算期間末における費用控除後の配当等収益 (490,272円)、費用控除後の有価証券等損益額 (0円)、信託約款に規定する収益調整金 (90,182,109円) および分配準備積立金 (13,229,714円) より分配対象収益は103,902,095円 (10,000口当たり4,243円) であり、うち244,874円 (10,000口当たり10円) を分配金額としております。

(注10) 当ファンドが組入れているマザーファンドにおいて、信託財産の運用の指図に係る権限の全部または一部を委託するために要する費用 (自 2019年9月18日 至 2019年12月31日)

当該マザーファンドに係る信託財産の純資産総額のうち、当ファンドに対応する部分の年率0.18%以内の額 (自 2020年1月1日 至 2020年3月16日)

当該マザーファンドに係る信託財産の純資産総額のうち、当ファンドに対応する部分の年率0.20%以内の額

＜分配金のお知らせ＞

当作成期中の収益分配は、基準価額の水準および市況動向等を勘案して決定しました。各決算期の分配金および分配金の計算過程は以下の通りです。なお、収益分配にあてなかった留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

	第205期	第206期	第207期	第208期	第209期	第210期
1万円当たり分配金	10円	10円	10円	10円	10円	10円
費用控除後の配当等収益	382,273円	423,823円	556,095円	381,912円	411,274円	490,272円
費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益	0円	0円	0円	0円	0円	0円
収益調整金	98,169,409円	96,832,303円	96,496,435円	91,548,441円	90,569,795円	90,182,109円
分配準備積立金	13,634,077円	13,533,954円	13,619,422円	13,192,367円	13,145,371円	13,229,714円
分配対象収益 (1万円当たり)	112,185,759円 (4,203円)	110,790,080円 (4,209円)	110,671,952円 (4,220円)	105,122,720円 (4,226円)	104,126,440円 (4,233円)	103,902,095円 (4,243円)
分配金額 (1万円当たり)	266,881円 (10円)	263,177円 (10円)	262,198円 (10円)	248,735円 (10円)	245,985円 (10円)	244,874円 (10円)

- ◇ 分配金を再投資する場合
お手取り分配金は、各決算日現在の基準価額に基づいて、みなさまの口座に繰り入れて再投資いたしました。
- ◇ 分配金をお支払いする場合
分配金のお支払いは、各決算日から起算して5営業日までに開始いたします。
- ◇ 分配金は普通分配金に課税され、個人の受益者の場合、源泉徴収の税率は20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）となります。（原則として、確定申告は不要です。）
法人の受益者の場合、源泉徴収の税率は15.315%（所得税15%および復興特別所得税0.315%）となります。
（注）当作成期末現在で適用される内容であり、税制が改正された場合等は変更される場合があります。外貨建資産への投資により外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。
- ◇ 元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

＜お知らせ＞

該当事項はありません。

ピクテ・ユーロ最高格付国債ファンド・ マザーファンド 運用状況のご報告

第17期（決算日：2019年9月17日）
（計算期間：2018年9月19日～2019年9月17日）

受益者のみなさまへ

「ピクテ・ユーロ最高格付国債ファンド・マザーファンド」は、「ピクテ・ユーロ最高格付国債ファンド（毎月決算型）」、「ピクテ・ユーロ最高格付国債ファンド（3ヵ月決算型）」、「ピクテ・ユーロ最高格付国債インカム・ファンド（毎月決算型）」、「ピクテ・ユーロ最高格付国債インカム・ファンド（SMA専用）」および「ピクテ・ユーロ・セレクト・インカム（適格機関投資家専用）」が投資対象とするマザーファンドで、信託財産の実質的な運用を行っております。

以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第17期の運用状況をご報告申し上げます。

●当マザーファンドの仕組みは次の通りです。

主 な 運 用 方 針	主としてユーロ参加国の国債に投資することにより、安定的なインカムゲインの確保とともに信託財産の成長を目指して運用を行います。
主 要 投 資 対 象	質の高いユーロ通貨採用国の国債
主 な 投 資 制 限	株式への投資割合 …転換社債を転換ならびに新株予約権を行使したものに限り信託財産の純資産総額の30%以内とします。 外貨建資産への投資割合 …制限を設けません。

■最近5期の運用実績

決算期	基準価額		参考指数		債券 組入比率	債券 先物比率	純資産 総額
		期中 騰落率		期中 騰落率			
	円	%		%	%	%	百万円
13期(2015年9月15日)	20,474	2.5	20,212	2.0	97.7	3.0	23,734
14期(2016年9月15日)	18,322	△ 10.5	18,062	△ 10.6	97.8	2.8	17,272
15期(2017年9月15日)	20,347	11.1	20,041	11.0	97.4	△ 0.5	15,536
16期(2018年9月18日)	20,377	0.1	20,057	0.1	97.6	△ 1.2	13,012
17期(2019年9月17日)	19,958	△ 2.1	19,637	△ 2.1	98.0	△ 1.3	10,982

(注1) 債券先物比率は買建比率－売建比率です。

(注2) 参考指数は、FTSE EMU国債指数AAAを委託者が円換算し、設定日（2002年9月25日）を10,000として指数化したものです。

■当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		参考指数		債券 組入比率	債券 先物比率
		騰落率		騰落率		
(期首)	円	%		%	%	%
2018年9月18日	20,377	—	20,057	—	97.6	△ 1.2
9月末	20,542	0.8	20,220	0.8	97.5	△ 1.2
10月末	20,165	△ 1.0	19,846	△ 1.0	97.2	△ 1.3
11月末	20,342	△ 0.2	20,015	△ 0.2	96.8	△ 1.3
12月末	20,157	△ 1.1	19,829	△ 1.1	96.6	△ 1.1
2019年1月末	19,972	△ 2.0	19,631	△ 2.1	96.8	△ 1.1
2月末	20,133	△ 1.2	19,782	△ 1.4	97.4	△ 1.2
3月末	20,201	△ 0.9	19,855	△ 1.0	97.5	△ 0.8
4月末	20,075	△ 1.5	19,736	△ 1.6	97.2	△ 0.8
5月末	19,876	△ 2.5	19,533	△ 2.6	96.8	△ 0.8
6月末	20,263	△ 0.6	19,916	△ 0.7	96.7	△ 0.9
7月末	20,206	△ 0.8	19,847	△ 1.0	98.3	△ 2.3
8月末	20,127	△ 1.2	19,759	△ 1.5	98.1	△ 1.3
(期末)						
2019年9月17日	19,958	△ 2.1	19,637	△ 2.1	98.0	△ 1.3

(注1) 騰落率は期首比です。

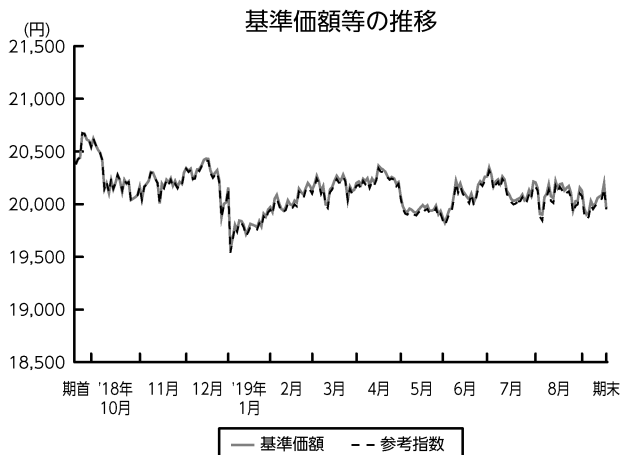
(注2) 債券先物比率は買建比率－売建比率です。

(注3) 参考指数は、FTSE EMU国債指数AAAを委託者が円換算し、設定日（2002年9月25日）を10,000として指数化したものです。

■当期中の運用状況と今後の運用方針（2018年9月19日から2019年9月17日まで）

1. 基準価額等の推移

当期の基準価額は、2.1%の下落となりました。



○基準価額の高値・安値

期首	期中高値	期中安値	期末
18/9/18	18/9/25	19/1/4	19/9/17
20,377円	20,670円	19,561円	19,958円

※参考指数は期首の基準価額に合わせて指数化しています。

◇主な変動要因

- 下落↓ ・円に対してユーロが下落したこと
- 上昇↑ ・組入国債からの利金収益
- 上昇↑ ・組入国債の価格が上昇したこと

2. 投資環境

- ユーロ圏高格付国債市場は、期首から12月にかけては、イタリア財政問題や英国の欧州連合（EU）離脱交渉が難航したこと、世界的に株価が急落したことで投資家のリスク回避姿勢が強まったことなどを背景に、上昇（利回りは低下）しました。2019年1月から3月にかけては、米連邦公開市場委員会（FOMC）で利上げのペースの大幅な見直しが示唆されたことに加えて、欧州中央銀行（ECB）が年内は金利を据え置くとのフォワードガイダンスや長期性資金供給（TLTRO-Ⅲ）の導入を公表したことなどを背景に、上昇（利回りは低下）しました。その後、8月にかけては、米中の貿易摩擦への懸念やユーロ圏内外の景気減速への懸念、英国による合意なきEU離脱への警戒感などを背景に投資家のリスク回避姿勢が強まったことで高格付国債は買われ、上昇（利回りは低下）しました。9月中旬には、ECBの定例理事会において、利下げと資産買取プログラム（APP）の再開を含む包括的な追加金融緩和策導入が決まった一方、ドラギ総裁が経済成長とインフレ回復の主な手段は金融政策でなく財政政策であるべきと発言したことが、市場参加者に今後の金融緩和余地は限定的と解釈されたことから、期末にかけて下落（利回りは上昇）しました。
- 為替市場では、2018年9月は、欧州と経済的結び付きが強いトルコが市場予想を上回る利上

げを実施したことを契機にトルコ市場についての投資家の不安が後退したことや、ECBのドラギ総裁が欧州議会でインフレ基調が底堅いと証言したことなどを背景に、ユーロは対円で上昇しました。10月から2019年1月上旬にかけては、ユーロ圏の経済指標が軟調だったことやイタリア財政問題、英国のEU離脱問題などを背景に、ユーロは対円で下落しました。1月中旬から3月にかけては、世界的に株式市場が堅調に推移したことで投資家のリスク回避姿勢は後退したものの、ECBがハト派（金融緩和を选好）的な金融政策の修正を行ったことなどから、ユーロは対円で概ね横ばい状態で推移しました。5月にはトランプ米大統領が2000億ドル相当分の中国製品に対する制裁関税を引き上げる方針を示すなど、米中の対立懸念が強まったことを受けて、リスク回避的に円が買われやすい地合いとなりました。また、貿易戦争による影響や外需の減少などを通じてドイツの輸出が低迷し、8月に発表された同国の2019年4－6月期の実質国内総生産（GDP）は前期比0.1%減となりました。ドイツをはじめとするユーロ圏の景気減速への懸念の高まりが、ユーロ相場の重しとなりました。

3. 組入状況

主に最高格付のユーロ通貨採用国の国債に投資を行ってまいりました。

◇国別組入比率

【期首】

国名	組入比率
ドイツ	57.9%
オランダ	34.7%
フィンランド	5.0%



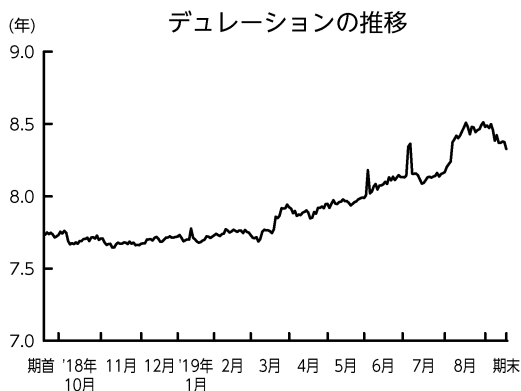
【期末】

国名	組入比率
ドイツ	65.4%
オランダ	32.6%

（注）組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

組入銘柄は、すべてAAA格相当の格付が付されています。

◇デュレーション



先物取引を利用してデュレーション*の調整を行い、当期中は7.7年から8.3年程度へ長期化しました。

*投資元本の平均回収期間で金利の動きに対する感応度を示します。一般的に数値が大きいほど金利の動きに対して債券価格の変動が大きくなり、逆に数値が小さいほど債券価格の変動は小さくなります。

4. 今後の運用方針

(1) 投資環境

ユーロ圏の景気減速懸念や米中の貿易摩擦の激化、また英国のEU離脱への不透明感の高まりなどを背景に、当面はECBによる緩和的な金融政策姿勢が継続すると予想しています。一方で、ドイツ10年国債利回りは史上最低水準近辺を推移しており、割高感が意識されることで国債利回りの一方的な低下基調が長期に亘って継続する可能性は低いと予想しています。

為替市場では、米中貿易摩擦問題やユーロ圏の景気減速懸念が、対円で見るとユーロ相場の重しとなっています。このような環境下、ユーロ・円相場は、ECBの金融政策がユーロ圏の景気安定に寄与するか、または日欧の金利差拡大に伴ってユーロ安を進行させるか、すぐには方向感が定まりにくく、当面は現状近辺を中心として変動することを想定しています。

(2) 投資方針

ユーロ圏の経済動向を注視しながら、ユーロ通貨採用国の最高格付国債に厳選投資を継続し、安定的なインカムゲインの確保と信託財産の成長を目指してまいります。また、金利動向見通しにより、機動的なデュレーション調整を行っていく考えです。

外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行わない方針です。

■ 1万口（元本10,000円）当たりの費用明細

項 目	当 期 (2018年9月19日～2019年9月17日)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
平均基準価額	20,171円	—	期中の平均基準価額（月末値の平均値）です。
(a) 売買委託手数料 (先物・オプション)	0円 (0)	0.000% (0.000)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ・ 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (そ の 他)	4 (4) (1)	0.021 (0.018) (0.003)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ・ 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 ・ その他は、先物取引の委託証拠金に係る支払利息その他信託事務の処理等に要する諸費用
合 計	4	0.021	

(注1) 上記の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、設定・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、各項目毎に小数第3位未満は四捨五入しています。

(注3) 各金額の円未満は四捨五入しています。

■ 当期中の売買および取引の状況（2018年9月19日から2019年9月17日まで）

(1) 公社債

			当 期	
			買 付 額	売 付 額
外 国	ユ	ー	千ユーロ	千ユーロ
	ド	イ ツ	—	2,007
	オ	ラ ン ダ	1,942	5,137
	フ	ィ ン ラ ン ド	—	4,172 (650)

(注1) 金額は受渡代金です。（経過利子分は含まれておりません。）

(注2) 単位未満は切り捨てています。

(注3) ()内は償還等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

(2) 先物取引の種類別取引状況

種 類 別		買 建		売 建	
		新規買付額	決 済 額	新規売付額	決 済 額
外 国	債 券 先 物 取 引	百万円 —	百万円 —	百万円 746	百万円 770

(注1) 単位未満は切り捨てています。

(注2) 外国の取引金額は、各月末（決算日の属する月については決算日）の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算した金額の合計です。

■主要な売買銘柄 (2018年9月19日から2019年9月17日まで)

公社債

当		期	
買 付		売 付	
銘 柄	金 額	銘 柄	金 額
	千円		千円
7.5% NETHERLANDS GOVT 23/1/15(ユーロ・オランダ)	235,438	7.5% NETHERLANDS GOVT 23/1/15(ユーロ・オランダ)	638,604
		4.375% FINNISH GOVT 19/7/4(ユーロ・フィンランド)	517,809
		6.5% DEUTSCHLAND 27/7/4(ユーロ・ドイツ)	135,562
		4.75% DEUTSCHLAND 40/7/4(ユーロ・ドイツ)	118,207

(注1) 金額は受渡代金です。(経過利子分は含まれていません。)

(注2) 国内の現先取引によるものは含まれていません。

(注3) 単位未満は切り捨てています。

■利害関係人との取引状況等 (2018年9月19日から2019年9月17日まで)

該当事項はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人をいいます。

■特定資産の価格等の調査 (2018年9月19日から2019年9月17日まで)

該当事項はありません。

■組入資産の明細 (2019年9月17日現在)

外国 (外貨建) 公社債

(A) 種類別開示

区 分		当 期 末							
		額面金額	評 価 額		組入比率	うちBB格 以下組入比率	残存期間別組入比率		
			外貨建金額	邦貨換算金額			5年以上	2年以上	2年未満
ユー ロ 圏		千ユーロ	千ユーロ	千円	%	%	%	%	%
	ド イ ツ	34,000	60,266	7,179,548	65.4	—	65.4	—	—
	オ ラ ン ダ	23,500	30,042	3,578,951	32.6	—	—	32.6	—
合 計		57,500	90,308	10,758,499	98.0	—	65.4	32.6	—

(注1) 邦貨換算金額は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注3) 額面・評価額の単位未満は切り捨てています。

(注4) —印は組入れがありません。

(注5) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(B) 個別銘柄開示

銘 柄 名		当 期 末					
		種 類	利 率	償還年月日	額面金額	評 価 額	
						外貨建金額	邦貨換算金額
<ユーロ建>			%		千ユーロ	千ユーロ	千円
(ドイツ)4.75% DEUTSCHLAND		国債証券	4.75	2040/7/4	15,000	30,465	3,629,295
6.5% DEUTSCHLAND			6.5	2027/7/4	19,000	29,801	3,550,252
(オランダ)7.5% NETHERLANDS GOVT			7.5	2023/1/15	23,500	30,042	3,578,951
合 計		—	—	—	—	—	10,758,499

(注1) 邦貨換算金額は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) 額面・評価額の単位未満は切り捨てています。

先物取引の銘柄別期末残高

銘 柄 別		当 期 末	
		買 建 額	売 建 額
外 国	EURO-BOBL	百万円	百万円
		—	96
	EURO BUXL 30	—	50

(注1) 単位未満は切り捨てています。

(注2) 邦貨換算金額は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注3) —印は組入れがありません。

■投資信託財産の構成

(2019年9月17日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公 社 債	千円 10,758,499	% 97.9
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	234,534	2.1
投 資 信 託 財 産 総 額	10,993,033	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切り捨てています。

(注2) 当期末における外貨建純資産 (10,986,254千円) の投資信託財産総額 (10,993,033千円) に対する比率は99.9%です。

(注3) 外貨建資産は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、当期末における邦貨換算レートは、1ユーロ=119.13円です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2019年9月17日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	10,993,033,772円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	6,778,987
公 社 債 (評 価 額)	10,758,499,257
未 収 入 金	3,681,117
未 収 利 息	182,366,442
前 払 費 用	6,242,086
差 入 委 託 証 拠 金	35,465,883
(B) 負 債	10,190,075
未 払 解 約 金	10,190,000
未 払 利 息	19
そ の 他 未 払 費 用	56
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	10,982,843,697
元 本	5,502,980,457
次 期 繰 越 損 益 金	5,479,863,240
(D) 受 益 権 総 口 数	5,502,980,457口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額 (C / D)	19,958円

<注記事項>

(貸借対照表関係)

(注1) 期首元本額 6,386,148,448円

期中追加設定元本額 38,409,686円

期中一部解約元本額 921,577,677円

(注2) 期末における元本の内訳

ビクテ・ユーロ最高格付国債ファンド (毎月決算型) 93,133,484円

ビクテ・ユーロ最高格付国債ファンド (3ヵ月決算型) 296,942,839円

ビクテ・ユーロ最高格付国債インカム・ファンド (毎月決算型) 3,955,733,151円

ビクテ・ユーロ最高格付国債インカム・ファンド (SMA専用) 160,399,488円

ビクテ・ユーロ・セレクト・インカム (適格機関投資家専用) 996,771,495円

期末元本合計 5,502,980,457円

(注3) 1口当たり純資産額は1.9958円です。

■損益の状況

当期 (自2018年9月19日 至2019年9月17日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	465,992,359円
受 取 利 息	466,099,763
支 払 利 息	△ 107,404
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 685,236,125
売 買 益	547,986,777
売 買 損	△ 1,233,222,902
(C) 先 物 取 引 等 取 引 損 益	△ 26,333,490
取 引 益	3,677,114
取 引 損	△ 30,010,604
(D) そ の 他 費 用 等	△ 2,514,890
(E) 当 期 損 益 金 (A + B + C + D)	△ 248,092,146
(F) 前 期 繰 越 損 益 金	6,626,617,395
(G) 追 加 信 託 差 損 益 金	38,640,314
(H) 解 約 差 損 益 金	△ 937,302,323
(I) 計 (E + F + G + H)	5,479,863,240
次 期 繰 越 損 益 金 (I)	5,479,863,240

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益および(C)先物取引等取引損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(D)その他費用等にはその他費用に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(G)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 損益の状況の中で(H)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

<お知らせ>

該当事項はありません。